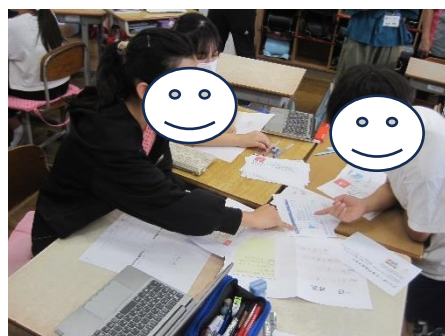
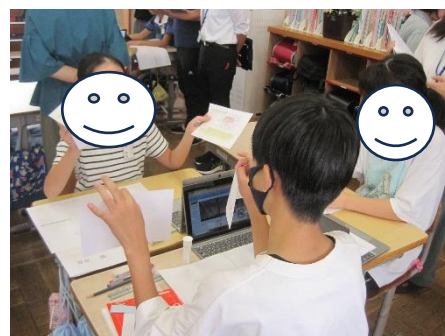


令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 国語科	実践の 期間	1 単元 (9時間)
単元名	発信しよう、私たちの SDGs		
教科・領域 等の目標	SDGs について、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり、関連付けたりして、伝えたいことを明確にするとともに、パンフレットの中に図表を用いるなど書き方を工夫することができる。		
SDGs Goal	1～17 (児童が選択)		
<展開> 【第1・2・3時】「SDGsを知り、自分の調べたいテーマを決め、情報を集めよう。」 ・パリオリンピックで実際に使われたボトルなどを見せて、世界的な取り組みであることを知り、意欲を高める。 【第4時】「集めた情報を基に、グループでパンフレットの目次を考えよう。」 ・情報を集約し、同じもの異なるものに分類するなかで、全体の流れを考えて目次を作成する。 【第5時】 「集めた情報を取捨選択して、担当記事に必要な情報を考えよう。」 ・グループで集めた情報の中から、自分の記事に使用する情報を選び取る。 【第6・7時】「記事を作ろう。」 ・図表やグラフなどを用いて担当の記事を完成させる。 【第8時】「完成した記事を推敲しよう。」 ・完成した記事に誤字脱字がないか、図表やグラフに、引用元が記載されているか確認する。 【第9時】「完成した記事を読み合おう。」 ・互いの記事を読み合い、SDGsについて理解を深める。			
<成果と課題> ○パリオリンピックを用いた導入のおかげで意欲的に学習に取り組めた。 ○グループで集めた情報を見合う活動を設けたことで情報の取捨選択ができた。 ▲調べる中で、世界と日本の現状を混同してしまい、混乱する場面があった。			



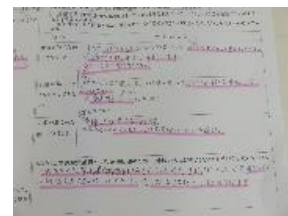
令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 社会科	実践の 期間	1 単元 (8時間)
単元名	住みよい暮らしをつくる		
教科・領域 等の目標	廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基にごみの減量のため自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。		
SDGs Goal	12 つくる責任 つかう責任		
<展開> 第1時 「ごみを分別しよう」 自分の家でごみ調べを行い、どのようなごみがあるのか分別をする。 第2時 「ごみのゆくえを調べよう①」 前時で分別したものをグループで交流し合い、ごみのゆくえについて話し合う。 第3時 「もえるごみのゆくえを調べよう②」 クリーンセンターでごみがどのように処理されるのかを調べ、実際に見学に行った際の質問を考える。 第4時 「人々の協力でごみが生まれかわる様子を知ろう」 ひたちなか市のリサイクルガイドやホームページを参考に、ごみがどのように再利用されるのかを調べる。 第5時・第6時 「クリーンセンターの見学」 クリーンセンターに見学に行き、実際にごみが運ばれる場面や燃やされる所を見学し、職員の方々に質問をする。 第7時 「ごみ処理のうつり変わりと課題を考えよう」 昭和30年代のごみ処理の様子と現代の様子を比べ、現代のごみ処理の課題を考える。 第8時 「自分たちにできることを考えよう」 前時に考えた課題解決に向け、自分達ができることを考える。 <成果と課題> ○ごみの増加や最終処分場の不足など身近な課題に気付き、「リサイクル運動のためのポスターを作る」や「給食を残さず食べて食品ロスを減らす」など、自分ができる解決方法を考える児童が多かった。 ▲自宅のごみ調べなど、家庭の協力が必要となる負担が発生した。			



令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 理科	実践の 期間	1 単元 (15時間)
単元名	流れる水のはたらきと土地の変化		
教科・領域 等の目標	流れる水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら、流れる水の動きと土地の変化を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、川が引き起こす災害に関心を持たせる。		
SDGs Goal	11 住み続けられるまちづくりを		
<展開> 【第1時】 「2枚の写真から、なぜ、このような変化がおこるか考えよう。」 ・通常の川と増水時の川の写真から、課題を見つける。			
【第2～5時】 「流れる水にはどのようなはたらきがあり、また、量によって違いがあるのか調べよう。」 ・実験から、流れる水の働きについて考える。			
【第6・7時】 「流れる場所によって、川の様子には、どのようなちがいがあろうのだろう。」 ・写真やインターネットの情報から、川の上流、中流、下流の様子の違いを調べる。			
【第8・9時】 「大雨などによって川を流れる水の量が増えると、土地の様子はどのように変化するのだろう。」 ・写真やインターネットの情報から、水の量が増えたときの土地の様子の変化を調べる。			
【第10時】 「防災のためにどのような備えをしているのだろう。」 ・写真を見たり、動画を視聴したりして、水害を防ぐための施設や備えを調べる。			
【第11時】 「流れる水のはたらきは SDGsのどの Goal と関わりがあるか考えよう。」 ・SDGsの17の Goal の中で、流れる水の働きと関連している Goal について話し合う。			
【第12・13時】 「防災対策委員になって地域の防災について考えよう。」 ・取手市の過去の災害である小貝川の決壊の動画を視聴し、取手市の地図から取手市の地域の特徴を調べる。 ・小貝川の地図から、流れる水のはたらきの学習を生かして、危険場所を予測し、「災害が起こる前」「災害が起こりそうなとき」「災害が起こってしまったら」どのようなことができるかを考える。			
【第14・15時】 ・全体で水害に備えてできることを共有する。 ・これまでの授業を振り返り、これからの自分の防災への在り方を考える。			
<成果と課題> ○流れる水のはたらきを身近にある地域の川で考えることによって、災害と関連付けて考えることができた。実際の写真を用意することで、児童が予測した危険箇所に高い堤防ができていたり、テトラポットが置いてあることが実感できた。7月に台風に関連して「マイ・タイムライン」の作成をしたことで、災害前の行動についても考えることができた。 ▲水害を自分事としてとらえるのが難しく、また、その時間にあった資料を準備することが難しかった。			



令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 外国語科	実践の 期間	1 単元 (8時間)
単元名	Unit5 We all live in the Earth. (NEW HORIZON Elementary English Course 6)		
教科・領域 等の目標	地球に暮らす生き物について考えるために、暮らす場所や何を食 べるのか、生き物同士のつながりなど、伝えようとする内容を整理した上 で簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合ったり話したりすること ができる。		
SDGs Goal	14 海の豊かさを守ろう		
<展開> 【第1時】 「生き物の暮らしについての内容を聞き取ろう。」 ・映像を視聴し、ワークシートの問いに答える。 【第2時】 「地球の生き物たちについて伝えよう。」 ・生き物たちがどこに暮らしているのか、何を食べているのかについて○×ゲーム (TIC TANC TOE)をしながら尋ね合う。 【第3時】 「どんな生き物が何を食べるのか考えよう。」 ・どんな生き物が何を食べるのか絵カードを置きながら考える。 【第4、5時】 「絵本の作り方を知り、食物連鎖 (Food Chain) を紹介する文を作ろう。」 ・教師が作成した本の見本を見たり、説明を聞いたりして本の作り方を知る。 ・相手に紹介したい生き物の食物連鎖について、文と絵を書く。 【第6時】 「作った文をより良くするために、互いに見合ってアドバイスし合おう。」 ・ペアで絵本の紹介練習を行い、タブレットのビデオ機能を使って撮影する。 ・グループになり、撮影した動画を見てスコアカードに評価を記入し、改善点や良 い点を伝える。 【第7時】 「食物連鎖 (Food Chain) を紹介しよう。」 ・グループになって発表し合う。 【第8時】 「環境について考えよう。」 ・環境を守るために、自分たちにどんなことができるか考え、話し合う。			
<成果と課題> ○食物連鎖について調べることで、環境保全や絶滅危惧種についても学ぶことが できた。 ▲撮影の際、ビデオにうまく声が入らなかったり、撮影したビデオを互いに見たりす る時間が少なかった。			

令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 総合的な学習の時間、社会科	実践の 期間	9月2日～26日
単元名	水産業の盛んな地域 大津の未来を考えよう		
教科・領域 等の目標	「水産業のさかんな地域」の学習を通して分かったことを、大津漁港での水産業にも取り入れて、持続可能な地域社会をつくっていく。		
SDGs Goal	11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう		

<展開>

1 水産業のさかんな地域(社会科)

① わたしたちの食生活と水産物

② まき網漁の様子

③ 魚がわたしたちのもとへとどこまで

④ 養殖業の問題点

2 大津の海へ飛び出そう。(総合的な学習の時間)

○大津の海のよい所

- ・海がきれい ・魚が多い ・港がきれい ・魚がおいしい

○「この良さを残していくために、大津漁港の抱えている問題を解決していこう。」

① 大津漁港で行われている漁の方法

- ・まき網漁 ・底引き網漁

② 漁獲量の変化

- ・漁獲量が年々減ってきている。

③ 大津漁港が抱えている問題点

- ・海が汚れる。 ・魚がとれる量が減ってきている。
- ・船に乗る人が減ってきている。(高齢化)

④ 問題を解決するために

【魚を増やす手立て】

- ・魚を捕る量を減らす ・ヒラメなどの稚魚を放流する。

【若い人が住みやすいまちにする手立て】

- ・若い人が興味を持てるものをつくる ・魚を加工する場所をつくる。

⑤ 大津漁港で行う漁の方法

- ・魚を取りすぎないように、一本釣りやはえ縄漁など大きな魚を捕る漁にする。
- ・シラス漁を行う時期を調整する。

<成果と課題>

○大津港が抱えている問題点(高齢化、漁業者の減少、漁獲量の減少、若者がいなくなる)について子どもが考え、その対策を立てることができた。

▲地域にどう発信していくことができるか、具体的な方法を見つけられていない。

▲今までの伝統とどう整合性を図っていくことができるかが未知数である。

令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 総合的な学習の時間・理科	実践の 期間	Ⅰ 単元 理科2時間・総合5時間
単元名	みんな知ってる、SDGs?!		
教科・領域 等の目標	理科:気温と生き物や植物の様子を関係づけて考えることができる。 総合:SDGsについて理解し、自分たちの育てた落花生がどのように食べられ、保存できるかを知ることができる。		
SDGs Goal	15. 陸の豊かさを守ろう		
<展開> 【第1時】 総合的な学習の時間:「SDGsって、なんだろう?」 ・SDGsについて学び、世界ではどんな取組があるのか知る。			
【第2・3時】 理科:「落花生の実は、どのようになっているだろうか?」 ・ずっと観察してきた落花生の実が、どのようになるのかを観察する。 ・掘って、実のでき方の観察をする。			
【第4時】 総合的な学習の時間:「落花生はどんな味?」 ・収穫した落花生を茹でて、食べてみる。 ・実の観察をしながら、落花生の塩茹を作る。			
【第5・6時】 総合的な学習の時間: 「落花生は、世界中でどのように食べられているのだろうか」 ・日本の「落花生の食べ方」について調べる。 ・世界の「落花生の食べ方」について調べ、自分が食べてみたいものや紹介したい料理を詳しく調べる。 ・紹介したい料理の作り方、味について詳しく書き出し、ワークシートにまとめる。			
【第7時】 総合的な学習の時間:「みんなで落花生の料理について紹介しよう」 ・3～4人グループで、順番に調べた料理について発表をする。			
<成果と課題> ○落花生を通して、その国のことに興味をもったり、調べてみたりと、想像以上に広がりをもって学ぶことができた。落花生が保存食として適していることや、様々な国で食べられていることにも気づき、食材としてのすごさを子供たちが実感していた。 ▲料理についての膨大な情報量の中から、必要なことを書き出すことが大変だった。また、他国について興味をもって調べたが、情報が多すぎて、まとめるのに苦労した。			



令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 総合的な学習の時間	実践の 期間	36時間
単元名	おいしいお米ができるまで		
教科・領域 等の目標	「私たちのふるさと妻里の米作り」を未来に引き継ぐことを目指し、持続可能な農業の在り方や地域との関わりの中で自分たちができることについて考えを深め、分かりやすく発表することができる。		
SDGs Goal	12 つくる責任 つかう責任		
<展開> 【第1次】(7時間) オリエンテーション ・米作りの日程、めあてを確認する。「米」と聞いて思いつくことを各自でウェビングマップにまとめ、共有することで、米についての関心を高める。 ・インターネットや本、米作りインストラクターの方の話から必要な情報を収集し、これからの学習に向けた課題を設定する。 ・仮説を立て、検証していく探究学習ができるようにする。 【第2次】(8時間) 探究学習 田植え体験、稲の観察(除草) ・米作りインストラクターの方々の指導のもと、田植え体験を行う。 ・自分たちで植えた稲がどのくらい生長したのか、タブレットを活用しながら観察記録を作成する。 【第3次】(8時間) 探究学習 稲刈り・もみすり・脱穀 ・稲刈りや脱穀の体験、もみすりの見学をとおして、昔と今の農作業の違いを実感する。米作りインストラクターの方の話から、機械化が進んだ現代の農業やドローン等を活用したスマート農業について知り、持続可能な農業の在り方についての考えを深める。 【第4次】(7時間) 探究学習 収穫祭 ・米作りインストラクターの方々へ感謝の気持ちを伝えるため、5年生が中心となって収穫祭を実施する。米作り体験の感想発表や各自が設定した課題について調べたことをSDGsと関連づけながら発表する。 【第5次】(6時間) まとめ ・各自の課題に沿って調べたことを、ICTを活用して発表会を行う。 ・「おいしいお米ができるまで」をSDGsと関連づけながら模造紙にまとめ、アグリメイトいきいき農業体験パネル展に出品する。 			
<成果と課題> ○地域の方を講師とした一連の米作り活動をとおして、自分たちのふるさとである妻里のよさを改めて実感し、持続可能な農業の在り方について考えを深めることができた。 ▲暑さの影響で、収穫前に学校田に行く機会が少なく、開花観察ができなかった。暑さ対策を講じて行く機会をもっと増やし、生育具合を定期的に調べることで、より米への愛着をもつことができるのではと考える。			



令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種	教科・領域等	実践の	
小	総合的な学習の時間	期間	1 単元(10 時間)
単元名	鹿嶋市を持続可能なまちへ！		
教科・領域等の目標	SDGs の視点から鹿嶋市のまちづくりや世界が抱えている問題の解決について考える探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気付くことができる。また、地域のことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、その実現に参画しようとする態度を育てる。		
SDGs Goal	1～17(児童が選択)		
<展開> 単元を貫く課題「鹿嶋市を持続可能なまちにするためには？ ver. 2 ～地域の方々に『サステナブルな暮らし』を伝えよう～」			
【第1次】(実施時期 10 月) ・9月に実施したゴミ拾いイベントを振り返る。また、世界が抱えている問題について知る。(青年海外 協力隊や JICA の活動について動画で学ぶ。)			
【第2次】(実施時期 11 月上旬) ・自分の調べたい国とその国が抱えている問題についてグループ毎に調べる。SDGs17 のゴールの中でどのゴールが関連しているか考える。 ・Google スライドにまとめ、地域の人に伝える準備をする。			
【第3次】(実施時期 11 月下旬) ・**まつりの学年発表で地域の方々に SDGs について伝える。 ① 各教科で SDGs に関する学習の成果の発表 (国語:ゴール 16「たずねびと」 家庭科:ゴール 12「物やお金の使い方」 社会:ゴール 2,13,14,15「これからの食料生産」など) ② 総合的な学習の時間で実施した 「鹿嶋市役所×鹿島アントラーズ×**小学校 コスプレ風ゴミ拾いイベント」の実施報告 ③ 世界の SDGs に関するプレゼンと「キリマンジャロ」の合奏			
<成果と課題> ○アンケート調査を実施したところ「私は、さまざまな活動を通して、地いきへの愛着がわいている。」という項目に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童の割合が、74.1%から 89.7%になった。 ○「地域のために活動したい」と考えている児童は、89.6%いることが分かった。このことから本実践は、地域への愛着心を深め、持続可能な社会の実現に向けた実践意欲を高めることにつながったといえる。			



令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 総合的な学習の時間	実践の 期間	年間
単元名	「SDGs に挑戦！」～持続可能な未来～		
教科・領域 等の目標	SDGs に関心をもち、自分で見いだした課題を解決するために、進んで調べたり働きかけたりし、今後の自分について考え SDGs を実践することができる。		
SDGs Goal	1～17 (児童が選択)		

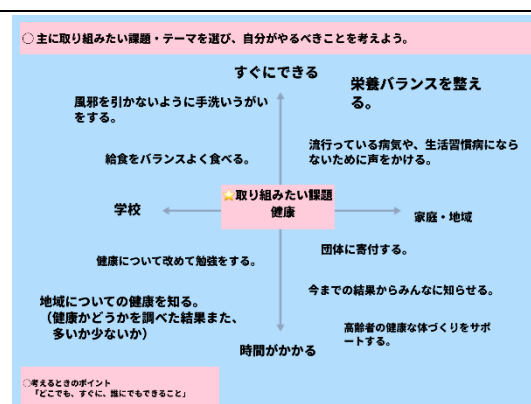
<展開>

【1学期】

「オリエンテーション」

「SDGs について調べよう。」

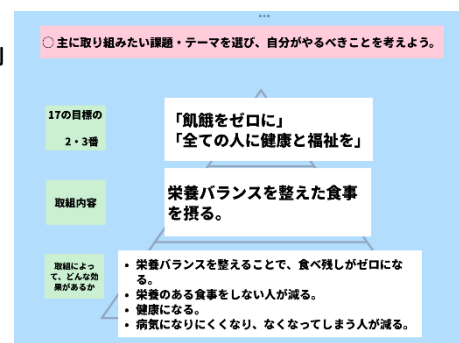
- ・SDGs について知っていることを話し合う。
- ・日本や世界で取り組んでいる SDGs について調べる。
- ・各目標について詳しく調べる。
- 「自分たちにできる SDGs に取り組もう」
- ・こども園との交流の計画・準備をする。・第1回交流会（芋苗植え・遊具遊び）



【2学期】

「自分たちにできることを具体的に考え、実践しよう」

- ・調べたことを整理し、各自のテーマを決める。
3番…1人、5番…2人、7番…1人、10番…1人、
13番…4人、14番…6人、15番…2人、
16番…3人、17番…2人
- ・自分のテーマに関してさらに深く探究し、自分たちにできることを具体的に実践していく。
- ・授業や学習内容とSDGsの関連について考える。
- ・こども園との交流の計画・準備をする。・第2回交流会（芋苗掘り）



【3学期】(予定)

「活動のまとめをしよう」

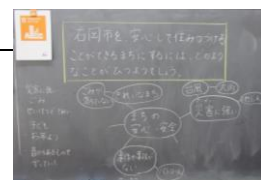
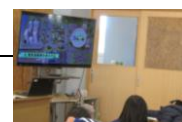
- ・発表会で学んだことを発信する。・一年間の活動を振り返る。
- ・こども園との交流の計画・準備をする。・第3回交流会（小学校生活の紹介）

<成果と課題>

- 自分の関心のある目標を選んで探究することで、子供たちが主体的に考え、学習に取り組むことができた。
- ▲3学期は発表会を通して、自分が選んだもの以外の目標についても視野を広げられるようにしたい。

令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 総合的な学習の時間	実践の 期間	後期
単元名	だいすき いしおか～石岡の良いところをつたえよう～		
教科・領域 等の目標	・地域に興味・関心をもってよさを見つけたり、考えたことを表現したり、意見交換したりすることで、更なる地域のよさに気付くことができる。 ・石岡の自然や観光名所、歴史について調べ、「自慢カード」をつくることができる。		
SDGs Goal	11 住み続けられるまちづくりを		
<展開> 【7月まで】 「ふるさとじまんカードをつくろう」 ・石岡市の 自然 観光名所 古いもの から興味のあるものを1つ選び、1枚のカードにまとめる。			
【9月～11月】 「石岡のじまんについてさらに調べて、スライドにまとめよう」 ・自然 観光名所 古いもの を1つずつ選び、副読本やインターネットで調べる。 ・調べたことの中からクイズを考え、スライドを作成する。			
【12月～】 「たくさんのじまんがある石岡市を守っていくためには？」 ・動画を視聴して、SDGs について知る。 『あなたはどんな未来をえがきますか』（日本ユニセフ協会） ・目標11を取り上げて、安心して住み続けることができるまちについて考える。 ・安心して住めるまちについて、ウェビングマップ使って考える。 ★社会科で学習した、「火事からくらしを守る」「事故や事件からくらしを守る」と関連付ける。 ・以下の2点を、石岡じまんのスライドに追加する。 ①石岡市を、住み続けることができるまちにするために大切だと思うこと ②自分ができること ・考えたことをグループで発表する。			
児童が作成したスライド 良い街をつくるために大切なこと 1 海をよごさない（よごすと動物がいなくなってしまう） 2 ゴミをなくす（ゴミなどがあると空気が悪くなる） 3 火災に強い街（電線から守れる街） など 自分の街を守るためには、 ゴミなどを処分して きれいな街を作ろう			
<成果と課題> ○総合の学習に位置づけたことで、自分の住むまちのよさに気付き、守っていく大切さについて考えることができた。 ▲今後は、地球規模の問題として捉えていけるように、指導していきたい。			



良い街をつくるために大切なこと

- 1 海をよごさない（よごすと動物がいなくなってしまう）
- 2 ゴミをなくす（ゴミなどがあると空気が悪くなる）
- 3 火災に強い街（電線から守れる街）

自分の街を守るためには、
ゴミなどを処分して
きれいな街を作ろう



令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 総合的な学習の時間	実践の 期間	1 単元
単元名	「地球に優しくするために」～地球環境を考える～		
教科・領域 等の目標	地球環境が抱えている課題を身近な生活や資料から見出し、調査活動や交流活動を通して、環境保全のために自分ができることを考え、生活に生かすことができる。		
SDGs Goal	13 気候変動に具体的な対策を		
<展開> 【第1時】 「地球に起きている環境問題を知ろう。」 身近に起きている環境問題を知り、どのような問題に直面していて、どのような対策が行われているのか関心を高める。 【第2～5時】 「環境問題について調べよう。」 興味をもった環境問題について調べ、自分にできる対策は何か考える。 【第6時】 「環境問題について調べよう。」 霞ヶ浦環境科学センターに行き、環境問題について詳しい人にインタビューし、調べ学習を深める。 【第7～9時】 「環境問題について、紹介するプレゼン資料を作成しよう。」 前時までに調べたことをスライドにまとめ、プレゼン資料を作る。 【第10～13時】 「環境問題について、調べたことを分かりやすくする練習をしよう。」 まとめた内容をクラスで発表するために練習する。 【第14～15時】 「環境問題について、調べたことを発表しよう。」 クラスで発表し、動画に撮ったものを保護者に配信する。			
<成果と課題> ○自分が興味をもった環境問題について調べることを通して、それぞれの課題の重大さを知り、自分にできることを考え、実践したことによって、環境保全への意欲が高めることができた。 ▲スライドに調べたことをまとめることはできていたが、その後の実践の振り返りなど、これからの環境問題について考える時間も確保が必要であった。			

2 今どのような問題が起きているか

海の水がなくなったり、今まで寒かったところが暑くなったりしています。

このような異常気象が地球温暖化の問題です。

引用元 gootudo



4 問題を解決するために

地球温暖化を止めるにはたとえちよっとの距離を自転車に乗り、リデュース、リフューズ、リユース、リペイ、リサイクルの5Rなどのことをしましょう！





令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 総合的な学習の時間	実践の 期間	年間
単元名	わたしたちの地域の食と環境		
教科・領域 等の目標	児童が米作りや茨城県の農産物について調べたことを 4 年生に知ってもらうために、分かりやすく発表することができる。		
SDGs Goal	12 つくる責任 つかう責任 15 陸の豊かさを守ろう		
<展開>			
【第 1 時】			
「米作りや茨城県の農産物について知ろう。」 ・社会科で学習した「米づくりのさかんな地域」の学習や田植え体験を振り返り、興味をもった内容や詳しく調べてみたいと思った内容を決める。			
【第 2 時】			
「米作りや茨城県の農産物について調べよう。」 ・前時で選択した内容についてインターネットや書籍などを使い情報を収集する。			
【第 3 時】			
「米作りや茨城県の農産物についてまとめよう。」 ・前時で収集した情報を整理し、スライドにまとめる。			
【第 4 時】			
「米作りや茨城県の農産物についての発表準備をしよう。」 ・前時でまとめたスライドをもとに、発表原稿を作成し、発表に向けて練習する。			
【第 5 時】			
「米作りや茨城県の農産物について調べたことを発表しよう。」 ・各自が調べてまとめた内容を、学級で発表する。			
【第 6 時】			
「より良い発表に向けて準備しよう。」 ・前時に発表した内容を振り返り、スライドの内容や発表の仕方などを改善する。			
【第 7 時】			
「米作りや茨城県の農産物について 4 年生に発表しよう。」 ・米作りについてまとめたスライドの内容を 4 年生に発表する。			
<成果と課題>			
○社会科の学習だけでなく、田植え体験やJAの方の出前授業を通して、児童たちは米作りや農産物について興味をもって学習することができた。			
▲児童は SDGsに繋がる活動としての意識が希薄だった。そのため、担任が児童に、取り組んでいる活動がSDGsのどの目標に該当しているのかを伝える必要があった。			

令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 総合的な学習の時間	実践の 期間	1 単元(2 時間) 2 学期
単元名	「みんなで学ぼう SDGs!わたしたちができる SDGs の取組」		
教科・領域 等の目標	SDGs カード等を活用して、SDGs17 のゴールと 169 のターゲットを正しく理解するとともに、日本とアフリカをはじめとする諸外国とのつながりを知る中で、自分のできる SDGs の取組を自分事として考えることができる。		
SDGs Goal	1～17(児童が選択)		

<展開>

①「SDGs 持続可能な開発目標」って？

- ・SDGs カードを活用し、カルタ取りやクイズ形式での取組から、SDGs17 のゴールへの興味・関心を高めた上で、正しく、その内容を理解する。
- ・SDGs1～17 のゴールの中から、自分たちの生活に身近だと思う開発目標を一つ選び、選んだカードの目標を実現するために、自分が今日からできそうなことを考え、話し合う。



(児童の発表から)「2 飢餓をゼロに」→「今日から家のご飯や給食を残さず食べることで、フードロスをなくす。(世界の食糧難を救うことにつながると思うから。)」等の意見

②「私たちの生活とアフリカのつながり」って？

- ・「国際理解教育実践資料集」を活用し、「ワーク①」の資料を使って、ワークショップ形式で、日本とアフリカとの人的・物的つながりを知る。



(児童の発表から)「コーヒー・ガソリン・ダイヤモンド・カカオ・プラチナ・携帯電話・ゲーム機」は、アフリカの資源に頼って日本が輸入していることは知っていたが、「たこ焼き・蚊取り線香・ごま・イセエビ・ウナギ等」は意外だった。

→絵カードの 18 品目全てがアフリカとつながりがあると知って驚く。

- ・アフリカをはじめとする諸外国からの輸入に頼る日本は、自国のみでは今現在の豊かな暮らしが成り立たないことを学び、SDGs の実現は、他人事ではなく自分事であると理解し、再度、自分が今日からできそうな SDGs の取組を考え、話し合う。

(児童の発表から)「12 つくる責任つかう責任」→「アフリカが抱える課題(紛争等)は私たちの消費生活も影響していることから、どの品も使い捨てせず大切に長く使う。」等の意見

<成果と課題>

○SDGs の問題を自分事として捉え、楽しくも真剣に考え、話し合い、実践意欲が高まった。

▲別冊「みんなが知らないアフリカのこと」を活用し、さらにアフリカとのつながりから考察する。

令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 総合的な学習の時間	実践の 期間	年間(4月～3月)
単元名	大好き大洗 人・もの ～「わたしたちの20年後の大洗マップ」をつくろう～		
教科・領域 等の目標	大洗町における産業の発展を目指した学習を通して、大洗町の産業の現状や組織、そこで働く人の思いや願いについて理解し、地域の一員として持続可能な「20年後の大洗町」について進んで調べたり考えたりするとともに、調べ学習や体験活動、発表会を通して学んだことをこれからの自分の生活や行動に生かす。		
SDGs Goal	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 14 海の豊かさを守ろう		

<展開>

【小単元1】

産業について知り、さらに知りたいことを体験活動や出前授業を通して調べ、地域をより魅力的にするためにどんな産業が発展すればいいか考えよう。

- ・ 町農林水産課「田植え体験」(5/15)
- ・ キューピー「マヨネーズ教室」(6/7)
- ・ かねふく「めんたいパーク見学」(7/3)
- ・ JA グループ茨城「食農出前授業」(7/17)
- ・ 町漁業協同組合「水産業の話を聞く会」(9/6)
- ・ 町漁業協同組合「漁業体験」(9/13) ※1
- ・ 町農林水産課「稲刈り体験」(9/26)
- ・ 大洗サンビーチでマイクロプラスチック採集(12/6)
- ・ 自分たちで収穫したお米で調理実習(12/13)
- ・ ペーパーウエイト・シェルトレイ作り(12/20) ※2



※1



※2

【小単元2】

地域の産業を生かした持続可能な町づくりを目指して、「わたしたちの20年後の大洗マップ」をつくろう。

- ・ SDGs すごろく
- ・ 夏休みの調べ学習(個人)
- ・ プロジェクトを具体化するための話し合い(班) ※3



※3

【小単元3】

地域とわたしたちの関わりについて振り返り、地域のために自分たちができることを考えよう。

- ・ **小学校とのオンライン発表会
- ・ 地域に向けたプレゼンテーション

<成果と課題>

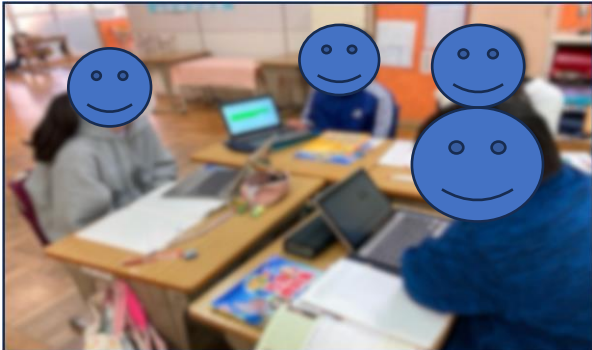
○地域資源を活用した体験活動を通して、地球規模でのSDGsについて考えるきっかけになる
気付きがたくさんあり、教科横断的な授業づくりの推進につながった。

▲小学校1・2年生の生活科、さらに小学校3年生から中学校3年生の総合的な学習の時間の
9年間を通して、系統的にSDGsの視点からの見方や考え方を育てていく必要がある。

令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 総合的な学習の時間	実践の 期間	後期
単元名	実践しよう!持続可能な社会のために		
教科・領域 等の目標	1～17 の目標について自分の興味・関心のある目標を達成するために実践手段を調べ、プレゼンテーション資料を作成し、他学年に伝えることで学校全体として、目標達成のために協力することができる。		
SDGs Goal	1～17(児童が選択)		
<展開> 9 月 「SDGsの17の目標の中から興味・関心のある目標を1つ決めよう。」 ・17の目標から自分の興味・関心のある目標を1つ決める。 9 月～10 月 「決めた目標の内容について調べよう。」 ・同じ目標の児童とグループになり、協力して目標を達成するための実践手段を調べる活動を通して、SDGsの目標について深く理解する。 11 月 「調べたことを実践してみよう。」 ・目標達成のために自分たちにできることを考え、実践してみる。 12 月 「SDGsの目標を達成するための取組を紹介する資料を作成しよう。」 ・自分たちの実践結果をもとに、他学年に伝える内容をプレゼンテーションソフトやポスターにまとめる。 1 月 「SDGsをみんなに広めよう。」 ・グループごとに他学年に自分たちの実践紹介や目標を達成するための呼びかけをする。 2 月 「目標達成に向けて意思表示をしよう。」 ・学校生活において目標達成に向けて意識することを宣言カードに記入する。 <成果と課題> ○興味関心のある目標について調べ学習を行ったため、意欲的に学習に取り組む児童が多く、身近な実践方法について真剣に考えることができた。 ▲個人で取り組んだ実践についてすべて把握することが難しかった。			

令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 つくばスタイル科	実践の 期間	1 単元 (10 時間)
単元名	世界の国々を探検しよう		
教科・領域 等の目標	・世界の国々の衣食住、文化、地形、自然を知り、他の国と比較することができる。 ・国ごとの良さを知り、世界には文化や生活などで異なる人々が共に暮らしていることを知ることができる。		
SDGs Goal	17. パートナリーシップで目標を達成させよう		
<展開> 【第1時】 「世界探検をしよう」 ・自分の知っている国や興味のある国について発表する。 ・資料を使って、地球上の国をみんなで探す。(グーグルアース、地図帳など)			
【第2、3時】 「世界にはどんな国があるのか調べよう」 ・インターネットや地図帳、図書を使って、地球上にはどんな国があるのかを調べる。			
【第4、5時】 「世界の国々について調べたことをまとめよう」 ・パワーポイントを使って、調べた世界の国々についてまとめる。			
【第6時】 「自分が調べた国のことを発表しよう」 ・班ごとに1人ずつ調べた国についてパワーポイントを見せながら紹介する。 ・発表後、データを班ごとに共有して次時につなげる。			
			

【第7時】

「友達の資料と自分が調べた国を比較しよう」

- ・友達の資料から自分が調べたことで不足していること、さらに調べた方が良く、関連して調べようと思ったことなどを、インターネットや地図帳、図書を使って調べる。

【第8時】

「他の国を知った上で、自分が調べた国をさらにまとめよう」

- ・他の国と比較したことや再調査したことをもとに、パワーポイントを使って、自分が調べた国の内容についてさらにまとめる。

【第9時】

「協働して世界の国々を考えよう」

- ・友達と協働して、世界の国々について考えを深める。
- ・世界には様々な国があり、生活、文化、食事、地形、自然、盛んなスポーツなどで異なる人々が共に暮らしていることを知る。

【第10時】

「世界の将来について考えよう」

- ・世界の国々の人々の暮らしを大切にしながら、今後私たちはどのような生活をしていけばよいかを考える。

<成果と課題>

- 自分が調べた国と友達が調べた国を比較してさらに深めることで、日本とは異なる文化や生活などがあることを知ることができた。世界の国々には、それぞれの国の良さを互いに認め合い、助け合っていくことが必要だと振り返る児童が多かった。
- ▲今回は、国ごとの文化、生活、言語、自然、スポーツなど、その国の良い面を中心に学習を行ったが、実は貧しかったり、国の中で格差があって教育を受けられない子供もいたりするなど、課題を多くもつ国を知り、「何か協力できることはないのだろうか」などと、先進国の立場からできることを考えていくことも大切であると感じた。

令和6年度 持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座 実践レポート

校種 小	教科・領域等 特別活動	実践の 期間	9月～11月
単元名	ずっと続く地球の未来のためにできることはどんなことだろう。		
教科・領域 等の目標	自分たちのクラスの目標は、どのSDGsの目標と関連しているかに気付くことができる。そこから、日常生活の中で、できそうなことを考えて実践しようとするすることができる。		
SDGs Goal	3 すべての人に健康と福祉を 10 人や国の不平等をなくそう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナリーシップで目標を達成しよう		
<展開> I 10月の全校朝会(時間が不足したため 後半は給食時のオンライン集会で) 1 スライド (1) 給食で完食した食缶 「なんだろう？」 (2) 日本のフードロスの量 (大人の象の約何頭分？かのクイズ) (3) 食べ物が無い世界の人口の割合 (4) いかに乗って学校へ通っている子 (何をしている？というクイズ) (5) 1. 3 5℃ってなに？ (100 年間の平均気温上昇率) (6) 紛争地帯の地図 (7) 17のSDGsのロゴ 2 【課題提示】 「じぶんのくらすのもくひょうは17のSDGsのどのゴールとかんげいしているかな？」 II 各学級 先生方へお願いしたこと 1 SDGs と級訓の関連について考える。 ・ 1～3年 朝の会等 「クラス目標はどのSDGs と関係しているか？」 (先生がコーディネーター役) ・ 4～6年 朝の会、オンライン調査 「クラス目標はどのSDGs と関係しているか？」(児童がコーディネーター役) 2 関連するSDGs ロゴを級訓に添えて写真撮影し、データをフォルダに保存 III 11月の全校朝会(時間が不足したため 後半は給食時のオンライン集会で) 1 スライド提示 (1) 各学級の級訓とSDGs との関連 (2) 関連するSDGs ロゴを級訓に添えた写真を提示 (3) R6の広島「平和への誓い」の一部抜粋 (私たちにもできる平和への一歩) 2 【お願い】 「じぶんたちにもできるSDGs の一歩 (いっぽ) を考 (かんが) えて、実行 (じっこう) してほしいなとおもいます。」 【成果と課題】 ○全学級で話し合う機会を作ったことで、SDGsがどういったもので、どんな目標があるのかという意識するには有効であったと思われる。 ▲SDGsの第1歩の実践ができたかの検証を、今後行う必要がある。			